

2022 年度第 4 回指導医制度委員会議事録

2022 年 12 月 5 日 6：30～7：00

WEB

参加者：田中信弘（担当理事）、相澤俊峰（委員長）、伊藤康夫、坂井顕一郎、
竹林庸雄、出村 諭、平井高志、星野雅俊、森本忠嗣、吉田 剛、渡邊航太、
橋本顕二（事務局）

欠席：宮崎正志（敬称略、50 音順）

担当理事挨拶後、以下について審議した。

1. 2022 年度の指導医審査結果の報告

事務局から以下のように報告があった。

- 名誉指導医 7 名、継続申請 284 名、新規申請 114 名は全員合格であったが、猶予申請 7 名中 3 名は不合格であった。
- 猶予申請不合格の 3 名は学会参加や指導イブニングセミナーなどの受講漏れであるが、ハイブリッド開催やオンデマンド配信をしているので、

猶予の正当な理由として認められないと判断された。

- 審査結果について委員全員の承認が得られた。

2. 新型コロナの感染拡大を理由とした猶予申請の可否について

- 2023年度の継続申請は、2024年3月31日で認定期間が終了する指導医である。したがって2018年8月1日～2023年7月31日までの症例提出、学会参加等が必要である。
- この期間中2020年と2021年はハイブリッド開催であったが、ほかは対面式であった。教育研修講演、指導医講習などはオンデマンド配信されたものが多かった。
- 議論の結果、2018年8月1日～2023年7月31日でコロナ感染が学会不参加、研修単位不足の理由にはならず、新型コロナの感染拡大を理由とした猶予申請は不可と判断した。

3. JSSR-DB 症例の入力手引について

- 事務局から2024年度の継続申請から2022年4月以降にJSSR-DBに

登録されている症例が、申請症例として使用されること、その入力についての注意事項を書いたスライドについて説明があった。

- JSSR-DB に登録済みの症例は「登録済み」をチェックすれば入力は終了する。「未登録」の症例ではその後、①「未登録の理由」、②「その他の理由では具体的な理由」、③「未登録症例では実施施設の責任者と電話番号」を記載しなければならない。
- 「未登録の理由」はプルダウン方式になっている。100 例以上では面倒なので、一括変換などの方式のほうが良いという意見が出され、事務局で検討することとなった。
- 「未登録症例では実施施設の責任者と電話番号」はよほど症例に疑問がなければ、問い合わせすることはないと考えられる。
- 来年度以降、入力が 2022 年 3 月までの症例（従来どおりの入力）と、2022 年 4 月以降の症例（DB 未登録と登録済で入力方法が異なる）に分かれるので、申請者の入力ミス等が増える。入力方法の詳細を HP に乗せるとともに、ニュースレター等で適宜会員に周知することとなった。

4. JSSR-DB と症例データの連携について

- DB 委員会の金村担当理事の話では、指導医制度の症例データと JSSR-DB を連携することは可能。ただ、システム改変の費用と時間がかかり、具体的にいつ頃できるかは不明。
- 症例をエクセルデータとして抽出するのは上記より容易に可能だが、少し時間が必要。
- 委員会としては将来的な JSSR-DB との連携を目指し、まずはエクセルデータでの抽出を可能にさせていただくよう、田中担当理事から理事会に依頼することとなった。

(文責：相澤俊峰)